

インターバンクの声（2016年6月27日）

欧州連合 (EU) からの離脱の是非を問う英国の国民投票は、意外にも離脱派が残留支持派に大きな差を付けて勝利した。投票が締め切られる前に伝わった世論調査が残留派優勢を伝え、離脱派のリーダーが早々に敗北宣言をしたことから、金曜日の東京時間早朝時点では大多数の人が残留派の勝利と思っていたはずだ。当然、市場も残留派の勝利を前提にしながら動き始めていた。しかし、残留派の支持層が多いとされた地域での苦戦や離脱派が優勢な地域でも想定以上に引き離されて敗北するなど、俄かに票読みが離脱派有利に傾き始めてからは、過去にも例にならないような大混乱に陥る相場になってしまった。ドル/円を例にすれば、早朝の107円に近い水準から昼前には99円台まで円買いが進んだわけで、数時間で7円近くも円買い・ドル売りが進むのは滅多にあることではない。もっとも英ポンドに関しては対ドルで1800ポイント、対円では27円近いポンド暴落だった。その後、さすがに調整による反発が見られているが、相場の混乱はまだまだ続きそうだ。ドル/円については為替介入が気になるところだが、確かに余りにも短期間に円が急上昇しただけに警戒したほうが良いだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。